



京都の祇園祭は、何のために行われたの

祇園祭は八坂神社の祭

京都で毎年、7月1日から29日まで、約1か月にわたって行われる祇園祭は、葵祭・時代祭とともに、京都三大祭の一つとされています。これは、祇園の八坂神社の神霊(神のみたま)を、氏子である、それぞれの町に、むかえるための祭です。八坂神社は、昔は、祇園社、祇園天神などと、よばれていた神社で、スサノオノミコトなどの三神が、祭られています。

祇園祭の始まり

平安時代の869年に、全国で疫病(伝染病、感染症)が流行しました。これは、祇園社に祭られている、スサノオノミコトのたたりにであると、いわれました。そこで、当時の日本の国の数にちなんで、66本の鉾を立て、みこしとともに神泉苑(平安京の大内裏の南東に接して造られた、天皇が遊ぶための庭園)に送り、疫病を去らせるための祈願が、行われました。これが、祇園祭の始まりと、いられています。(監修・田代 脩)

